

1. 日光皮膚炎, 日焼け solar dermatitis, sunburn

過度の日光曝露（主としてUVBが原因）によって紅斑、水疱が形成される。病理所見では、sunburn cell（角化細胞のアポトーシスによる）の出現、真皮血管周囲の浮腫、炎症細胞浸潤、壊死、表皮下水疱などをみる。日光曝露の数時間後に紅斑が生じ、次第に浮腫状となる（図13.15）。発症後12～24時間をピークとして軽快し、数日で落屑や色素沈着、ときには色素脱失を残して治癒する。治療には冷湿布やステロイド外用薬、水疱形成が生じた際には第Ⅱ度熱傷に準じた治療が必要である。予防にはサンスクリーンの塗布を行う。

2. 光老化 photoaging

日光ないし紫外線の慢性曝露により生じた、健常人の皮膚変化の総称。皺の形成、日光性弾力線維症、項部菱形皮膚（フォーブル ラクーショ 18章参照）、老人性色素斑、Favre-Racouchot症候群などが含まれる。

3. 光線過敏症 photosensitivity ★

同義語：光線過敏性皮膚症（photosensitive dermatosis）

Essence

- 日光ないし紫外線曝露によって発生あるいは悪化する皮膚疾患の総称。
- 外因性（薬剤など、表13.5）と内因性（遺伝疾患や代謝疾患など）がある。
- 外因性で発症する機序は、薬剤の直接作用によるもの（光毒性皮膚炎）と免疫学的機序を介するもの（光アレルギー性皮膚炎）に大別。
- 内因性で発症する疾患には色素性乾皮症など。

病因

外因性の化学物質によるものと、内因性の2つに分類される。内因性に光線過敏性皮膚症を生じる疾患については、それぞれ別項を参照されたい。本項目では、外因性によって生じるものについて解説する。

外因性の光線過敏症は、体内に取り込まれて皮膚に到達し、光線によって励起される物質〔クロモフォア（chromophore）〕が、日光や紫外線（UVAであることが多い）を受けて励起されることにより、皮膚に炎症を生じたものである。クロモフォアの皮膚への到達には、皮膚外表を経由するもの（化粧水、香

a

b

c

図13.15 日光皮膚炎, 日焼け (solar dermatitis, sunburn)

a：海水浴中に浜辺で3時間寝てしまったために生じた例。著明な水疱形成も認める。第Ⅰ～Ⅱ度熱傷と同様の状態。b, c：水着に覆われていた部位と露出部位の違いが明瞭な点に注目。

表 13.5 光線過敏症を引き起こす主な薬剤（青字はよく用いられるもの）

--

表 13.6 光線過敏症の分類と本書で解説した章

--

MED, MRD, MPD

MEMO 

水、果汁、タールなど。光接触皮膚炎という）と、体内から皮膚に移動するもの（薬剤、食品など）の2つの経路が存在する（表 13.6）。また、炎症を惹起する機序は2つ存在し、励起物質が抗原となって免疫反応を介して炎症を起こす場合（光アレルギー性）と、励起された物質が直接細胞毒性を帯びる場合（光毒性）がある（表 13.7, 図 13.16）。

1) 光アレルギー性皮膚炎 photoallergic dermatitis

Essence

- 薬物摂取後、日光曝露によりⅣ型アレルギー反応で生じる光線過敏性皮膚症。
- 症状は紅斑や水疱が主体。
- 本病態をきたす薬剤はケトプロフェン、クロルプロマジン、サイアザイド薬、経口血糖降下薬など。

症状

日光曝露を受けた部位に一致して紅斑や漿液性丘疹を生じる。高度の場合は浮腫、水疱、びらんを形成する。サイアザイド系降圧薬などでは、光線過敏症の後に著明な色素沈着と色素脱失を生じることがあり、白斑黒皮症（leukomelanoderma）

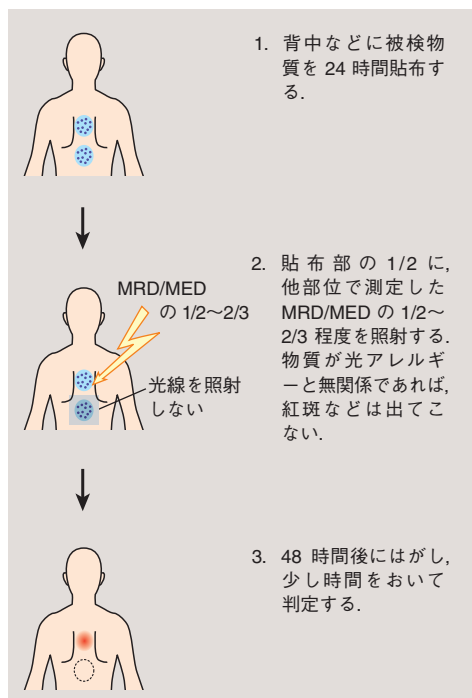


図 13.17 光パッチテスト施行法

以上中止する。ついで被検薬剤を2日間常用量で投与し、光照射により皮疹が再現できればほぼ確実である。

治療

原因物質の摂取を避け、遮光を行う。接触皮膚炎に準じて治療する。原因物質を断っても persistent light reaction と呼ばれる光線過敏症が残存することがある。persistent light reaction は現在、慢性光線性皮膚炎の概念（後述）に含まれている。

2) 光毒性皮膚炎 phototoxic dermatitis

Essence

- 一定量の薬剤と日光により、誰にでも発生しうる光線過敏性皮膚症。
- 初回曝露（主に UVA）にて潜伏期なしで発症することが特徴的。
- 本病態をきたす薬剤はソラレン、コールタール、スパルフロキサシンなど。

症状・治療

日焼け様症状が主である。すなわち、紅斑や浮腫をきたしたのち、落屑および色素沈着がみられる。とくに、香水中のベルガモット油に含まれるベルガプテン（bergapten, 5-methoxypsoralen）によるものをベルロック皮膚炎と呼ぶ。原因物質の摂取を避け、遮光を行う。治療は接触皮膚炎に準じる。

4. 日光蕁麻疹 solar urticaria

定義・病因・症状

何らかのクロモフォアが血清中に存在しており、光線曝露により皮膚内で I 型アレルギーが生じたものである。光線（可視光線が多い）曝露部位に一致して、数分後に著明な^{そうよう}痒疹を伴う蕁麻疹を生じるが、数時間で消退する。まれにアナフィラキシーショックを起こすこともある。

診断・検査

通常は日光や人工光源により皮疹の再発がみられることで診断されるが、遮光することで蕁疹の発生や悪化をみる例もある（抑制波長の存在が考えられる）。若年者では骨髓性プロトポルフィリン症との鑑別が必要な場合がある。

光接触皮膚炎
(photocontact dermatitis)

MEMO